

「再処理施設の工事計画」の変更に関わる今後の作業内容について

＜工程見直しにあたっての基本的な考え方＞

1. アクティブ試験については、安全を最優先して慎重に進める。
2. アクティブ試験を確実に成功させるために、下記の方策に取り組む。

（1）ガラス溶融炉の温度管理を確実なものとするため、温度計の追加設置工事などの必要な設備改善を行う。

（2）ガラス固化試験は、東海村にある実規模試験施設（KMOC）と実機の比較検証（事前確認試験）を実施し、段階的にデータを確認しながら慎重に進める。

（3）これまでの現場経験を踏まえた確実に実行できる作業計画と、裕度を持たせた全体工程を策定する。

（4）安定運転に万全を期すため、固化セル内の機器点検を継続して実施する。

2011年度内を目途		2012年10月まで	
主な作業等	補足	主な作業等	補足
①B系 溶融炉温度計追加設置工事 高レベル廃液濃縮缶対策 セル内機器点検 ↓ ②B系 ガラス溶融炉・事前確認試験 ○模擬廃液を使用し、KMOCと実機の 比較検証後、実廃液を使用 ↓ ③A系 溶融炉内残留物除去 ↓ ④A系 溶融炉温度計設置工事等 セル内機器点検 ↓ ⑤A系 ガラス溶融炉・事前確認試験 ○模擬廃液を使用し、KMOCと実機の 比較検証	①B系溶融炉温度計追加設置工事・高レベル廃液濃縮缶対策 ・KMOC試験等の結果を踏まえ、炉内の温度状態の変化に適した電力調整を適切に行うため、溶融炉内へ温度計を追加設置。並行して、高レベル廃液濃縮缶対策を実施。 ・工事はセル内機器点検と並行して実施。 セル内機器点検 ・高レベル廃液漏えいに伴う硝酸の影響を受けた可能性のある機器については、既に点検を実施済み。（218機器） ・念のためB系の試験に必要な機器を対象に再点検を実施。（108機器） ・パワーマニピュレータ等を定期的に点検する。 ②B系ガラス溶融炉・事前確認試験 ・KMOC試験で得られた成果を実機に適用するため、KMOCと実機との比較評価を行う。模擬廃液による試験を実施後、実廃液による試験を実施。 ③A系溶融炉内残留物除去 ・ガラス残留量は前回と同程度（10数kg）と評価。 ・事前に残留物除去作業訓練を徹底。 ・溶融炉内観察を実施。 ④A系溶融炉温度計追加設置工事等 ・A系溶融炉についても炉内へ温度計を追加設置。 ・A系の結合装置の交換。 ・工事はセル内機器点検と並行して実施。 セル内機器点検 ・念のためA系の試験に必要な機器を対象に再点検を実施。（110機器） ⑤A系ガラス溶融炉・事前確認試験 ・KMOC試験で得られた成果を実機に適用するため、KMOCと実機との比較評価を行う。模擬廃液による試験を実施。	⑥B系 ガラス固化試験 ○実廃液を使用し、安定運転確認 および性能確認 ↓ ⑦A系 ガラス固化試験 ○実廃液を使用し、安定運転確認 および性能確認 ↓ アクティブ試験報告書提出 ↓ しゅん工	⑥B系ガラス固化試験 ・実廃液による試験を行い、安定運転確認および性能確認を実施。 ⑦A系ガラス固化試験 ・実廃液による試験を行い、安定運転確認および性能確認を実施。